

大河内研ニュースレター No.7



研究室 HP : <http://www.okochi.env.waseda.ac.jp/about.html>

September 25, 2008

担当教員から



朝夕は過ごしやすい季節となりました。御父兄およびOBの皆様、いかがお過ごしでしょうか。前号でお知らせいたしました、9月17日～19日に当研究室の大学院生7名と大気環境学会に参加しました。学会終了後には家内と湯涌温泉に一泊し、兼六園と金沢城公園を散策し、21世紀美術館で現代アートを、県立美術館で法隆寺展を、近江市場で海の幸を堪能してきました。今回の学会は、M2 諸君にとって学生生活最後の学会発表であり、M1の荒井さんにとっては初めての学会発表でした。そこで、「大気環境学会 in 金沢」特集号を組みました。どうぞお楽しみ下さい。

大気環境学会 in 金沢

当研究室からはM1が2名、M2が5名、共同研究を行っている名古屋研究室(大河内先生の出身研究室)のD1が1名参加して、日頃の研究成果を発表しました。発表者名と概要を載せましたのでご覧ください。

<口頭発表>

・竹村尚樹「富士山における霧水の化学組成と湿性沈着量(4)」

富士山南東麓(標高 1300 m)において、新規開発した分割採取型自動霧水採取機で採取した霧水の測定結果を中心に発表しました。

・本田拓「丹沢における渓流水の化学組成と窒素飽和現象(2)」

東丹沢では大気沈着の影響により渓流水中の硝酸イオン濃度が高く、渓流水を通じて硝酸イオンが流出していることを発表しました。

・前島幸司「富士山における大気中PAHsの動態とその濃度支配要因」

富士山の山頂と南東麓における多環芳香族

炭化水素(PAHs)の濃度支配要因について、新宿や多摩と比較した結果を発表しました。



学会会場にて

<ポスター発表>

・荒井沙織「丹沢における渓流水の化学組成と窒素飽和現象(3)」

東丹沢における渓流水中金属元素の濃度分

布、渓流水中微量金属のキレート樹脂を用いた新しい濃縮方法について発表しました。

・船倉崇弘「富士山におけるガスおよびエアロゾル濃度の観測とその濃度支配要因(1)」

酸性ガス、アンモニアガスと粒子中の水溶性成分濃度を測定し、富士山南東麓における時間変動や季節変化について発表しました。

・三宅雄貴「有害大気汚染物質の動態解析と降水洗浄機構(6)」

早稲田と富士山で採取した大気および降水中に存在する揮発性有機化合物(VOC)の濃度、降水への溶解機構について発表しました。

・松延明典「大気中フミン様物質の定量と化学特性の解明(4)」

降水中に含まれるフミン様物質という高分子量有機物の濃度や起源を調べ、その界面活性作用や分光特性について発表しました。

・小島雄紀「大気浮遊粒子中含酸素多環芳香族化合物の大気動態」

大気中の微小粒子中に存在し、生物遺伝情報に影響を及ぼす新規有害物質の大気動態について発表しました。

クローズアップ・学生諸君！

今回のクローズアップ・学生諸君！では、学会参加者の正直な感想を聞いてみました。

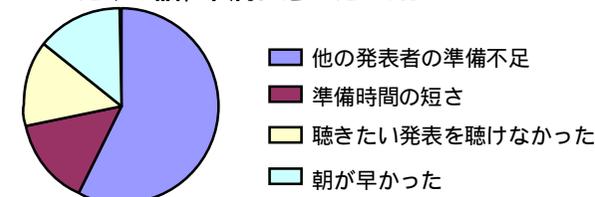
・今回の学会で一番印象に残ったことは？



「一人の人と30分話した」、「普段よりも活発な質疑応答ができた」など、やはり発表に対する反応が印象的だったようですね。

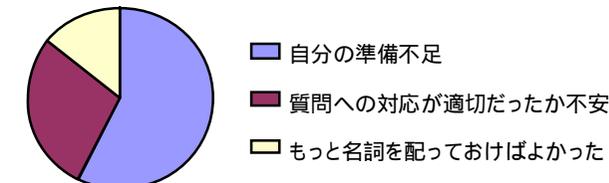
ちなみに松延先輩とお父さん…あまり似ていないそうです。(笑)

・ここだけの話、不満に思ったことは？



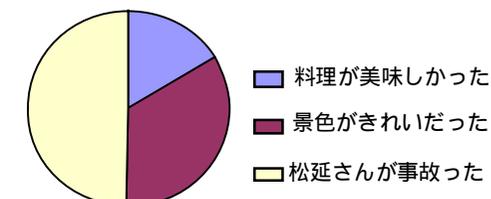
「他の発表者に熱意が感じられなかった」、「時間もオーバーするし、図も汚い」などの声が多かったです。「朝7:00集合は早すぎる」という正直な意見も。

・反省点がありますか？



「もっと早くからやっておけば…」と反省する方多数。普段のゼミも学会も中学生のテスト勉強も、反省点は同じなんですね。

・学会後の旅行中の思いでは？



「海鮮丼が美味しかった」、「景色がすばらしかった」といった意見を抑えて、「松延さんが車をぶつけられた事件」が堂々の一位を獲得。

参加者の皆さん、アンケートへのご協力、ありがとうございました。

今後の研究室予定

11月4日 紅葉ハイキング(with 日本女子大)  
12月下旬 新B4研究室配属会

ニュースレター係から

学会発表とあって、先輩方の力の入れ方も相当だったと思います。外からの刺激を受け、今後の研究に大きなプラスとなったのではないのでしょうか。僕ら後輩も見習わなければいけません。<栗島>

学会発表後は学生数名で金沢の兼六園や能登半島、富山県の黒部ダムなどを観光しました。旅先で先輩方と一緒にいろいろな体験ができて、楽しかったです。<竹村>